

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成30年2月22日(木) 11:00～11:45

場 所：法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

発表事項

1. 学生の就職内定状況とキャリアサポートについて
2. 「地方中小規模大学の教育実践力の開発・向上を支援する連携・体験型拠点」
山形大学教育開発連携支援センターの取り組みについて
3. 学生の活躍 ～星空案内人養成講座のリーダーとして全国最多の講座開催～
4. 山形大学の考えるソフトマターロボティクス概念とロボットの試作

お知らせ

1. シンポジウム「これからの時代に必要なフードリテラシーとは？～山形の地域性を活かした食育の可能性～」の開催について

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成30年3月7日(水) 10:00～10:45

場 所：法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

学長定例記者会見(2月22日)発表者

1. 山形大学学生の就職内定状況とキャリアサポートについて

学術研究院 准教授 (キャリア教育)

まつざか のぶひろ
松坂 暢浩

2. 「地方中小規模大学の教育実践力の開発・向上を支援する連携・体験型拠点」 山形大学教育開発連携支援センターの取り組みについて

学術研究院 教授(教育開発連携支援センターFD支援部門長)

おだ たかはる
小田 隆治

3. 学生の活躍 ～星空案内人養成講座リーダーとして全国最多開催～

理学部 物理学科4年

おぎはら りさ
荻原 理沙

// 地球環境学科3年

おくやま しおり
奥山 史織

4. 山形大学の考えるソフトマターロボティクス概念とロボットの試作

ソフトマターロボティクスコンソーシアム会長

学術研究院 教授(機械・高分子・ソフトマター)

ふるかわ ひでみつ
古川 英光

古川研究室 研究支援者

よしだ かずなり
吉田 一也

工学部機械システム工学科4年

たきしま ゆうき
滝島 勇希

平成30年2月22日
山形大学

学生の就職内定状況とキャリアサポートについて

山形大学学生の平成29年度卒業予定者の就職内定状況は、95%（平成30年1月末現在、学部生）で、県内への就職内定者の割合は、約25%となっています。

本学では、各キャンパスにおいて、ガイダンスの開催など、学生達の就職活動をサポートするほか、地域創生の担い手として、優秀な学生達が地元で活躍できるよう、地域への定着に向けた活動も行っています。

■平成29年度卒業・修了予定者の就職内定状況について（別紙）

■平成31(2019)年3月卒業・修了者向けに合同企業説明会を開催

山形大学合同企業説明会（全学部対象）

- ・日時：平成30年3月13日(火)、14日(水) 11:00～17:00
- ・場所：山形国際交流プラザ「山形ビッグウイング」
- ・出展企業：県内外から290社（2日間合計）を予定
- ・対象：山形大学の全学部の3年次、大学院1年次、就職活動中の4年次、大学院2年次、既卒者

※各学部生対象のもの

工学部合同企業説明会

- ・日時・場所：平成30年3月1日(木)～3日(土) 11:00～15:30、米沢市営体育館

農学部合同企業説明会

- ・日時・場所：平成30年3月8日(木) 13:00～16:40、グランドエル・サン

■地域への定着に向けた取り組み例

- ・OB/OGの先輩たちと職業観を考えるキャリアカフェ

本学の卒業生で、地元企業で活躍しているOB/OGから、採用活動とは関係なく、情報交換が行える「キャリアカフェ」を実施。対象学年の制限がなく、1年生から参加が可能で、先輩という身近な存在から自分の将来を考えることができます。平成29年度は3回（12月：小白川／12月・2月：米沢）実施し、約250人の学生が参加しました。

- ・県内企業訪問バスツアー

夏期休暇中に県内企業を訪問するバスツアーを実施しています。対象学年を制限せず実施しており、早い段階から、実際の会社の雰囲気や働き方に触れる機会となっています。平成29年9月に実施したツアーには約30人の学生が参加しました。

（お問合せ先）
教育・学生支援部 学務課
電話 023-628-4841

就職内定者の勤務予定地（山形県・宮城県・福島県）

3月卒業者に限る

平成30年1月31日 現在

※平成29年度

*勤務予定地別就職内定者数と内定者数に占める割合

所属（学部）	卒業予定者数	就職希望者数	進学者数	内定者数	就職希望者における内定率	勤務予定地別就職内定者数と内定者数に占める割合							
						山形県		宮城県		福島県		3県合計	
人文学部	336	294	12	266	90.5%	79	29.7%	73	27.4%	10	3.8%	162	60.9%
地域教育文化学部	235	195	19	185	94.9%	66	35.7%	34	18.4%	5	2.7%	105	56.8%
理学部	180	90	80	87	96.7%	20	23.0%	18	20.7%	3	3.4%	41	47.1%
医学部（内定者は看護学科のみ）	196	56	7	56	100.0%	19	33.9%	21	37.5%	0	0.0%	40	71.4%
工学部 昼間	556	239	298	236	98.7%	31	13.1%	34	14.4%	12	5.1%	77	32.6%
工学部 フレックスコース	48	27	20	27	100.0%	6	22.2%	0	0.0%	1	3.7%	7	25.9%
農学部	164	129	29	122	94.6%	23	18.9%	4	3.3%	17	13.9%	44	36.1%
学部 合計	1,715	1,030	465	979	95.0%	244	24.9%	184	18.8%	48	4.9%	476	48.6%

（参考）臨床研修医マッチング先の予定地別割合

*医学部医学科	132					54	40.9%	13	9.8%	4	3.0%	71	53.8%
---------	-----	--	--	--	--	----	-------	----	------	---	------	----	-------

*勤務予定地別就職内定者数と内定者数に占める割合

所属（大学院）	修了予定者数	就職希望者数	進学者数	内定者数	就職希望者における内定率	勤務予定地別就職内定者数と内定者数に占める割合							
						山形県		宮城県		福島県		3県合計	
社会文化システム研究科	8	2	1	2	100.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%
地域教育文化研究科	13	9	0	6	66.7%	3	50.0%	1	16.7%	0	0.0%	4	66.7%
医学系研究科	33	33	0	27	81.8%	20	74.1%	2	7.4%	1	3.7%	23	85.2%
理工学研究科（理）	67	58	2	56	96.6%	7	12.5%	6	10.7%	3	5.4%	16	28.6%
理工学研究科（工）	205	195	4	193	99.0%	11	5.7%	10	5.2%	6	3.1%	27	14.0%
有機材料システム研究科	72	69	2	69	100.0%	3	4.3%	2	2.9%	4	5.8%	9	13.0%
農学研究科	31	20	4	16	80.0%	0	0.0%	2	12.5%	1	6.3%	3	18.8%
教育実践研究科 ※	21	8	0	8	100.0%	7	87.5%	0	0.0%	0	0.0%	7	87.5%
大学院合計	450	394	13	377	95.7%	51	13.5%	24	6.4%	15	4.0%	90	23.9%

※教育実践研究科の現職教員10名は、就職希望者/内定者に含めない。

（参考）教育実践研究科の内、現職教員の勤務地別割合

*実践研・現職教員（内数）	10			10		10	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	100.0%
---------------	----	--	--	----	--	----	--------	---	------	---	------	----	--------

養護教諭特別別科	38	28	0	17	60.7%	2	11.8%	3	17.6%	1	5.9%	6	35.3%
----------	----	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	------	---	-------

2019年3月卒・修了 3年次・大学院1年次生集合!

山形大学

工学部・農学部から直通無料バス運行!
山形駅、小白川キャンパスから会場専用シャトルバスを運行!

合同企業説明会

3月13日(火)・14日(水) 開催時間/11:00~17:00(10:00受付開始)

場所
山形国際交流プラザ
山形ビッグウイング
(第1・第2集会展示場)
〒990-0076 山形市平久保100番地
TEL 023-635-3100



申し込みはこちら

求人検索NAVI
ユーザー名: ymgcareer
学籍番号 : ご自身の学籍番号
パスワード : 初期値は生年月日西暦8桁
<URL>
<https://www2.kyujin-navi.com/GAKUGAI/login/login.asp>



参加予定企業

3月13日(火) 企業名(50音順)

- 公務員講演コーナー企業
仙台市役所
山形県警察
- ブース企業
アース環境サービス株式会社
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
アイジー工業株式会社
青葉化成株式会社
アグロ カネショウ株式会社
旭硝子株式会社
株式会社朝日測量設計事務所
旭ファイバーグラス株式会社
株式会社アドフォース
安全自動車株式会社
アンテスグループ(日研ザイル株式会社、株式会社ゼンケン、株式会社健康体力研究所、ライオン菓子株式会社)
イオンリテール株式会社
株式会社伊藤園
株式会社岩手日報社
永大小名浜株式会社
ASEジャパン株式会社
株式会社NTT東日本-東北
株式会社エム・エス・アイ
遠藤商事株式会社
岡田商事株式会社
沖電気工業株式会社
小野薬品工業株式会社
オビサン株式会社
株式会社ガイアート
KYCOMホールディングス株式会社
カルソニックカンセイ株式会社
関東化学株式会社
KISCO株式会社
岐阜プラスチック工業株式会社
一般社団法人共同通信社
共和ハーモテック株式会社
金属技研株式会社
株式会社クレオ
興和株式会社
株式会社興和
株式会社コメリ
株式会社小森マシナリー
株式会社コヤマ
株式会社細胞科学研究所
佐藤株式会社
サンケン電気株式会社
三幸製菓株式会社
株式会社シード
JNC株式会社
株式会社シェルター
株式会社商工組合中央金庫
株式会社荘内銀行
新日鐵住金株式会社
新日本無線株式会社
株式会社スガサワ
Spiber株式会社
株式会社住田光学ガラス
株式会社青南商事
株式会社セゾンファクトリー
全国健康保険協会
株式会社セントラルリース
ソーダニッカ株式会社
第一貨物株式会社
太子食品工業株式会社
ダイワボウ情報システム株式会社
株式会社竹内製作所
田島ルーフィング株式会社
中越合金鋳工株式会社
月島食品工業株式会社
株式会社ツルハ
【DNPグループ】株式会社DNP情報システム/
株式会社DNPデジタルソリューションズ
DCMホームテック株式会社
株式会社DJK
テクノ・マインド株式会社
- 東亜レジン株式会社
東京エレクトロングループ
東京エレクトロン デバイス株式会社
株式会社東京めいらく
株式会社東邦銀行
東北インフォメーション・システムズ株式会社
(東北電力企業グループ)
東北化学薬品株式会社
東北電化工業株式会社
東北電力株式会社
東北バイオニア株式会社
東北バイオニアEG株式会社
株式会社東北博報堂
東北労働金庫
東洋刃物株式会社
東和薬品株式会社
凸版印刷株式会社
株式会社トプコン
株式会社トプコン山形
新潟県警察本部
ニクニグループ (株式会社ニクニ、株式会社ニクニ白鷹、
株式会社ニクニサヒ、株式会社最上川環境技術研究所)
株式会社日本アクセス
日本銀行
日本年金機構
株式会社ニフコ
日本たばこ産業株式会社(JT)
日本ファインセラミックス株式会社
株式会社日本旅行東北
株式会社ニューメディア
農林中央金庫
野村證券株式会社
株式会社ハイマックス
橋本産業株式会社
株式会社ハッピージャパン
株式会社日立国際電気
株式会社日立ソリューションズ東日本
フジクラ電装株式会社
富士通株式会社
フジテック株式会社
伏見蒲鉾株式会社
フルテック株式会社
ペーリಂಗーインゲルハイム製薬株式会社
株式会社北洲
マレーンジンコンポーネンツジャパン株式会社
前田製管株式会社
株式会社マクロミル
マニー株式会社
丸木医科器械株式会社
株式会社マイクロソフトウエア
三井住友海上火災保険株式会社
三菱伸銅株式会社
三菱電機特機システム株式会社
ミドリオートレザー株式会社
ミネベアミツミ株式会社
ムネカタ株式会社
明治コンサルタント株式会社
株式会社メディサイエンスプランニング
株式会社メディセオ
モガミフーズ株式会社
株式会社ヤガイ
山形ガス株式会社
株式会社山形環境エンジニアリング
山形サンケン株式会社/福島サンケン株式会社
山形酸素株式会社
株式会社山形新聞社
山形パナソニック株式会社
山形放送株式会社
株式会社ヤマコー
株式会社ヤマコン
山崎製パン株式会社
株式会社山本製作所
株式会社ヨークベニマル
株式会社ヨネイ
リンナイ株式会社
レンゴウ株式会社

3月14日(水) 企業名(50音順)

- 公務員講演コーナー企業
人事院東北事務局(国家公務員採用試験)
山形県庁
- ブース企業
アークランドサカモト株式会社(ホームセンタームサン)
アイリスオーヤマ株式会社
株式会社秋田銀行
株式会社アサカ理研
税理士法人あさひ会計
アマノ株式会社
株式会社ウエノ
宇宙興産株式会社
株式会社ウノハウス
株式会社NSGホールディングス(NSGグループ)
エヌ・テックソフトウェア株式会社
株式会社FBS
エムテックスマツラ株式会社
オーデリック株式会社
株式会社OKIソフトウェア
オリエンタルモーター株式会社鶴岡中央事業所
科研製薬株式会社
加速器エンジニアリング株式会社
株式会社金沢村田製作所 仙台工場
株式会社鐘崎
カメイ株式会社
株式会社カワチ薬品
株式会社かわでん
株式会社きらやか銀行
株式会社金龍
クリナップ株式会社
グローバルウェーブ・ジャパン株式会社
グンゼ株式会社
高級アルコール工業株式会社
株式会社高速
株式会社鴻池組
株式会社コガネイ
後藤電子株式会社
株式会社コロナ
コンドール株式会社
酒田共同火力発電株式会社
株式会社鷲宮製作所
佐藤製線グループ(①佐藤製線販売株式会社、
②東北セラミック株式会社、③株式会社福島ビルテック)
株式会社ジーシー
株式会社CDG
株式会社ジョインセレモニー
新晃工業株式会社
株式会社鈴木製作所
株式会社ステップ
スリーエム ジャパン プロダクツ株式会社
セイコーNPC株式会社
セコム工業株式会社
株式会社セブン銀行
セココ株式会社
全国農業協同組合連合会山形県本部
全国労働者共済生活協同組合連合会(全労済)
山形小森製薬株式会社
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
第一精工株式会社
大学生協同組合 東北事業連合
株式会社ダイキンアプライドシステムズ
大興電子通信株式会社
大正製薬グループ
大成建設株式会社
大同信号株式会社
ダイナパック株式会社
大和リース株式会社
株式会社タカハツ電子
通研電気工業株式会社
TIS東北株式会社
TPR株式会社
TPR工業株式会社
株式会社DSB情報システム(野村総合研究所グループ)
- テスコ株式会社
株式会社寺岡システム(TERAOKAグループ)
東海濃粉株式会社
株式会社東京インテリア家具
東京海上日動火災保険株式会社
東ソー・クォーツ株式会社
東北NSソリューションズ株式会社
株式会社東北バンキングシステムズ
東洋ガラス株式会社
株式会社トーキン
トーヨーカネット株式会社
株式会社巴川製紙所
トヨタカローラ山形株式会社
株式会社ナガオカ
株式会社にしむら
株式会社ニチレイフーズ 山形工場
日新製菓株式会社
日信ソフトエンジニアリング株式会社
日世株式会社
日東ベスト株式会社
株式会社NIPPO
日本シイエムケイ株式会社
株式会社日本政策金融公庫
日本放送協会(NHK)
日本財研株式会社
日本コンピュータサイエンス株式会社
日本食研ホールディングス株式会社
日本農産工業株式会社
日本プロセス株式会社
株式会社バイタルネット
ハイテックシステム株式会社
パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社
株式会社パロマ
株式会社日立ハイテクソリューションズ
株式会社日立パワーソリューションズ
株式会社日比谷花壇
福島キャンパ株式会社
株式会社福島銀行
公立大学法人福島県立医科大学
扶桑電通株式会社
株式会社北都銀行
ホクレン 農業協同組合連合会
保土谷化学工業株式会社
株式会社マイナビ
マックスバリュ東北株式会社
三井ホーム株式会社
株式会社ミツバ
三菱スペース・ソフトウェア株式会社
三菱マテリアルテクノ株式会社
株式会社南東北クボタ
みやぎ生活協同組合
株式会社宮城二コンプレッション
【富士通グループ】株式会社モバイルテクノ
株式会社薬王堂
山形カシオ株式会社
株式会社山形銀行
山形建設株式会社
山形航空電子株式会社
山形証券株式会社
山形東亜DKK株式会社
山形農業協同組合
山形労働局
株式会社ヤマザワ
株式会社ヤマザワ薬品
株式会社ヤマザワテック
ヤマリョー株式会社
株式会社コアテック
有機合成薬品工業株式会社
米沢信用金庫
ラビセミコンダクタ宮城株式会社
理研食品株式会社
リコージャパン株式会社 山形支社
株式会社YCC情報システム
わらべや日洋株式会社

平成30年2月22日
山形大学

「地方中小規模大学の教育実践力の開発・向上を支援する連携・体験型拠点」 山形大学教育開発連携支援センターの取り組みについて

山形大学教育開発連携支援センターは、文部科学省 教育関係共同利用拠点制度において、「地方中小規模大学の教育実践力の開発・向上を支援する連携・体験型拠点」として平成29年8月16日に認定を受けました。

FD及びSD*に関する各種事業の展開、地方中小規模大学へのコンサルテーションなどを実施しております。

1. 概要

事業名

「地方中小規模大学の教育実践力の開発・向上を支援する連携・体験型拠点」

事業期間

平成29年8月16日から平成31年3月31日

2. 事業実績

「相互研鑽と個別支援の両立」として以下を実施してまいりました。

- (1) 東日本を中心とした51大学等からなる「FDネットワーク“つばさ”」での各種研修会の実施
- (2) 全国の大学等を対象とした「FD合宿セミナー」や「大学間連携SD研修会」の実施
- (3) 全国大学・短大へのアンケート調査
- (4) 先進大学の訪問調査
- (5) 全国の大学の学長等インタビュー・コンサルティング
- (6) 講師派遣
- (7) 本拠点への調査訪問

<※参考>

FD (ファカルティ・ディベロップメント、Faculty Development)

教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称

SD (スタッフ・ディベロップメント、Staff Development)

事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組

(お問合せ先)

山形大学小白川キャンパス事務部
教務課教育企画担当
電話 023-628-4720

教育関係共同利用拠点制度について

《制度の趣旨》

多様化する社会と学生のニーズに応えるべく、各大学において、それぞれの教育理念に基づいて機能別分化を図り、個性化・特色化を進めながら教育研究活動を展開していくことが重要。

質の高い教育を提供していくためには、個々の大学の取組だけでは限界があるため、他大学との連携を強化し、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等の有効活用を推進することにより、**大学教育全体として多様かつ高度な教育**を展開していくことが必要不可欠。

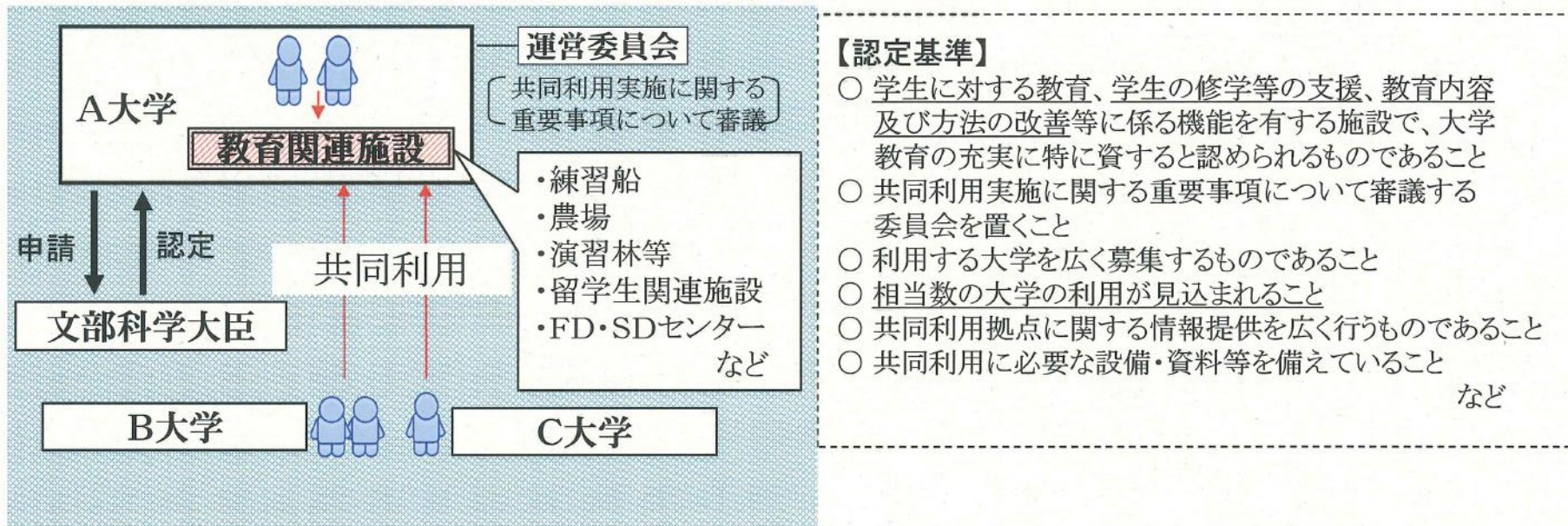
大学の教育関連施設の共同利用の促進を図るための制度を創設し（「教育関係共同利用拠点」。21年9月より施行*）、大学間連携を図る取組を一層推進。

*「学校教育法施行規則(第143条の2)」、「教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程」
(学術研究分野については、平成20年に「共同利用・共同研究拠点」を既に制度化)

《制度の概要》

大学における教育に係る施設で、当該施設が大学教育の充実に特に資するものについて、大学から申請を受けた後、審査の上で、**文部科学大臣が教育関係共同利用拠点として認定**。

大学は認定を受けた施設を他の大学の利用に供することができる。



教育関係共同利用拠点（大学の職員の組織的な研修等の実施機関）

拠点名称：**地方中小規模大学の教育実践力の開発・向上を支援する連携・体験型拠点**

申請施設：**山形大学教育開発連携支援センター**

背景：18歳人口減少に伴い、特に地方の中小規模大学では、現時点でも多くの大学が定員を充足できておらず、経営的な危機を迎えている。（私立大学44.5%、短期大学61%）
地方大学の生き残りが地域の発展に深く関わっている。

地方中小規模大学

大学の魅力や存在感を示す**実践的な教育力**を向上させたい
→ 一大学の限られた人的・財政的資源だけでは、質的・量的に**新たな展開を望むことは難しい！**

教職員の主体性に基づいた特色ある教育プログラムと授業法を開発、実践力が向上

教育実践力開発・向上を支援

地方中小規模大学の教育実践力の開発・向上を支援する連携・体験型拠点

山形大学教育開発連携支援センター

- ・2つの支援部門（**FD支援部門**、**地域教育連携支援部門**）
- ・地域ネットワークFD“**樹氷**”、FDネットワーク“**つばさ**”による14年間の活動でFD・SD支援のノウハウを蓄積
- ・**教育開発連携支援センター運営会議**

↓
体制整備

教育関係共同利用拠点運営委員会設置

外部委員として北海道大、札幌大、東北大、羽陽学園短大、名古屋大、広島大、ACもがみから各1名と学内委員5名の計12名の委員からなる委員会を設置

蓄積されたノウハウ

- ・FD講演会、FD合宿セミナー、公開授業と検討会の開放と共同利用
- ・学生による授業評価・学習成果等アンケートの共同利用
- ・シンポジウム、学生FD会議、大学間連携SD研修会等の企画・運営・実施
- ・他大学のFD・SDへの講師の派遣、担当者の指導や相談

+

拠点での特徴的な取組

- ・**アクティブ・ラーニング体験研修**、**フィールドラーニング実地研修**
- ・特色ある教育プログラムと授業法の開発支援
- ・山形大学独自の「**基盤力テスト**」開発に関する情報提供

平成30年2月22日
山形大学

学生の活躍 ～星空案内人養成講座のリーダーとして全国最多の講座開催～

星のソムリエの愛称で親しまれる星空案内人は、サイエンスコミュニケーター養成の全国的な資格認定制度です。全国各地で養成講座が開催されていますが、本学学生が主体となって、全国最多となる年間16回の資格認定講座を本年度開催しました。今回、講座開催にあたり、リーダーとして活躍したのは、理学部の荻原 理沙（おぎはら りさ）さん(物理学科4年)と奥山 史織（おくやま しおり）さん(地球環境学科3年)の2人。この活動はNPO法人小さな天文学者の会と共同で開催されており、学生がリーダーシップをとって社会人、地域と関わる中で、直面した困難やその乗り越え方など、今回の活動について、3月4日(日)～5日(月)に姫路市で開催される星空案内人(星のソムリエ®)全国シンポジウムで発表します。

◇ 山形大学における星のソムリエ養成講座の開催数は全国一です。

星のソムリエの愛称で親しまれる星空案内人は全国32カ所で開催されている全国的な資格認定制度です。多くの開催団体は、科学館であったり大学の授業の一環であったりする中、山形大学理学部ではNPO法人小さな天文学者の会と共同で講座を開設しています。創設(2006年)以来、現在までに64名の星空案内人と475名の準案内人を養成してきました。

今年度、荻原 理沙（おぎはら りさ）さん(理学部物理学科4年)と奥山 史織（おくやま しおり）さん(理学部地球環境学科3年)の2名の学生がリーダーとして、春の講座8科目、秋の講座8科目と合計16の授業を行い、さらにレポートの採点など、星のソムリエの認定に携わりました。学生がリーダーシップをとって、社会人と一緒になって講座を運営する難しさなどもありましたが、全国最多の講座開催を支え、星のソムリエというサイエンスコミュニケーターの養成に貢献しました。

【参考】星空案内人®資格認定制度について

<https://sites.google.com/site/hoshizoraannaishikakunintei/>

◇ 全国的なシンポジウムで発表します。

2人は、今回の活動の成果を全国シンポジウムで発表します。



第12回 星空案内人シンポジウム

日程：2018年3月4日(日)、5日(月)

会場：3月4日：日本城郭研究センター 大会議室

3月5日：姫路科学館 講義室

主催：星空案内人資格認定制度運営機構

共催：はりま宇宙講座実行委員会、姫路科学館、山形大学理学部

(お問合せ先) 理学部事務室
電話 023-628-4502

資格取得へいざ出発！

さて、資格に挑戦してみようと思われたなら、具体的にどうすればよいのでしょうか。



★資格取得までのおおまかな流れ



※本資格の運営団体、講座開催場所や日時については、最新の情報を以下から取得して下さい。

<http://astr-www.kj.yamagata-u.ac.jp/yao/ann/N.html>

資格は、2段階になっています。

星空案内人 (準案内人) <small>The Amateurs' Guide (Associate Guide)</small>	<p>最初のステップが「準案内人」。ひとりの勉強が終わった段階です。これから実技科目の認定を受ける段階へと進みます。この時期、公開天文台に通ったりしながら実技練習を積むと良いでしょう。</p>
星空案内人 <small>The Amateurs' Guide</small>	<p>星空案内の実技試験も合格し、実際の星空案内などの活動がはじめられる段階です。星のソムリエです。これから実践を積んで腕に研ぎをかけて下さい。</p>

左記2段階の資格は簡単のため、「準案内人」、「案内人」と呼んでいます。「星のソムリエ」は星空案内人に対する愛称です。これまでの実績からすると、準案内人資格は簡単にとれますが、案内人はちょっとハードルが高いようです。少し時間がかかってしまいますが、星のソムリエへの道と思いがんばりましょう。宇宙を見て、楽しみながら。まず、準案内人になり、次に、観望会や天文台でお手伝いしながら徐々に技術を身に付け、実技の単位を取得してゆくとよいでしょう。最後の仕上げは、通称「路上試験」と言っている「星空案内の実察」という実技科目の認定試験です。

講座の各科目には単位認定試験があります。該当する科目の授業に出席し試験に合格するとその科目の単位が取得できます。

[別表] 認定講座開講科目と星空案内人資格要件

必修科目		準案内人	星空案内人
「さあ、はじめよう」	講義科目	単位取得	単位取得
「望遠鏡のしくみ」	講義科目	単位取得	単位取得
「星空案内の実察」	実技科目	受講	単位取得
選択科目			
「宇宙はどんな世界」	講義科目	3科目以上 受講	3科目以上 単位取得
「星の文化に親しむ」	講義科目		
「星座をみつけよう」	実技科目		
「望遠鏡を使ってみよう」または「プラネタリウムを使ってみよう」	実技科目		

※各科目の単位取得には、該当科目と単位取得の両方が必要です。
 ※実技科目の単位取得には、公開天文台や天文台ネットワークによる星のソムリエの合格が必要で、準案内人、星空案内人の資格取得を目的とした場合は、資格認定委員会に届出を依頼下さい。
 ※認定は必ず、「認定書」および、実察の活動で「認定証(星空案内人)」が交付されます。



Q★ 星空案内人になるには？

A★ 星空案内人資格認定講座で勉強したり星空観察の実技練習をします。決められた科目の単位認定をうけることにより星空案内人の資格がとれる制度です。まったくの初心者でもやさしい講座や練習の機会が準備されているので簡単に資格を取得することができます。

Q★ 星空案内人資格の特徴は？

A★ 星空の案内に必要な知識や技術は意外に広いものです。奥深い天文学の知識、星座探しや小望遠鏡による観察の技能、星座用語など文化に関する知識などです。星空案内に必要な幅広い知識と技能を認定するのが星空案内資格認定制度です。資格を取ることで自信を持って人に説明したりボランティア活動に参加することができます。

Q★ 資格を生かせる場所はあるの？

A★ 近くの公開天文台、学校、科学館、公民館、天文愛好会などでは星空教室、星空観察会などを開催しています。そのような行事が活躍の場です。資格をとったら近くの星空案内の活動グループに属したり公開天文台や科学館などにボランティア登録などをすると活動の場が広がります。自分の子や隣人に星空を語るのも楽しい経験です。観光地などで星空案内をする仕事を得る機会もあるかもしれません。

※本制度の運営団体は、星空案内人の活動できる場やイベントなどの情報を紹介します。

Q★ 資格はいらないけれど星や宇宙についてちょっと勉強してみたいときは？

A★ 星空案内人資格認定講座は、資格取得が目的でなくても、ちょっと勉強したいときにも参加することができます。どうぞ気軽に講座を受けてください。そして、私も星空案内できるかな?と思ったら資格にも挑戦してください。

平成30年2月22日
山形大学

山形大学の考えるソフトマターロボティクス概念とロボットの試作

現在、山形大学においては、従来のロボット分野とは一線を画す「ソフトマターロボティクス」という概念を打ち立て、昨今の常識を一新する可能性を秘めた革新的な研究に挑んでいます。軽さ、柔らかさ、あたたかさ、静かさ、感触、素材を人間に近づけることを目標に、2017年11月29日から12月2日に開催された「国際ロボット展」で試作品を展示いたしました。

この取り組みを広く周知するため3月2日にソフトマターロボティクスコンソーシアム第3回シンポジウムを開催いたします。

■「ソフトマターロボティクス」について

山形大学では、2016年度JST（科学技術振興機構）採択事業「有機材料の極限機能創出と社会システム化する基盤技術の構築及びソフトマターロボティクスへの展開」を実施しております。

超スマート社会Society5.0の実現に向けては、柔らかく・優しく・作りやすい・エネルギーがかからない・どこでも電気を蓄えられる機能性有機材料が必須となります。分子創製の無限の可能性を真に活用し、

（1）ソフト機能材料・デバイス（2）ソフトセンシング（3）ソフトメカニクス（4）ソフト蓄電デバイスの4テーマで、有機材料の極限的な機能創出の学問的な挑戦をすることで4分野それぞれの革新的な産業の新展開を先導します。さらにそれらの融合により社会システム化を目指します。これらの基盤技術の構築によりロボット分野で人・モノ・情報・人工知能を優しくつなぐ新領域ソフトマターロボティクスの開拓に繋がります。

今回、これらの取り組みの中で、ソフトマターロボティクスとその付加価値として、「軽さ、柔らかさ、あたたかさ、静かさ、感触、素材が、人間に近いもので構成されているロボット」、「人体安全性（軽い・柔らかい）、快適性（柔らかい・あたたかい・静か・感触が良い）、環境安全性（人に近い素材）に優れている」などの概念を導き出し、試作品を製作いたしました。



■第3回シンポジウムの開催について

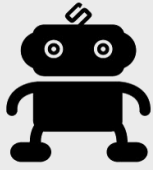
日時 平成30年3月2日（金） シンポジウム13:30～16:45 交流会17:00～18:30
場所 TKPガーデンシティ竹橋（東京都千代田区一ツ橋1丁目2-2住友商事竹橋ビル）

※詳細は別添をご参照ください。

（お問合せ先）

山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター（庄司、磯、小野寺）

TEL 0238-29-0566 FAX 0238-29-0567 E-mail yuopera@yz.yamagata-u.ac.jp



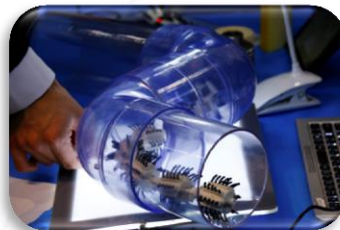
産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム

ソフトマターロボティクスコンソーシアム 第3回シンポジウム

趣旨

山形大学では、従来のロボット分野とは一線を画す「ソフトマターロボティクス」という概念を創造し、産学一体となり新領域の研究に挑んでいます。産学共創プラットフォーム事業では、新たな基幹産業育成の一端を担うべく「ソフトマターロボティクスコンソーシアム」を形成しています。この度、広くソフトマターロボティクスの概念を広めることを目的としてシンポジウムを開催しますので、皆様の御参加をお待ちしております。

～山形大学の考えるソフトマターロボティクスの概念とロボットの試作～



ソフトマターロボティクスとその付加価値

重さ、硬さ、あたたかさ、静かさ、感触、素材が、人間に近いもので構成されているロボット
人体安全性（軽い・柔らかい）、快適性（柔らかい・あたたかい・静か・感触が良い）、
環境安全性（人に近い素材）に優れている

日時・会場・申込み

日時：2018年3月2日（金） 13:30～16:45 交流会17:00～

場所：TKPガーデンシティ竹橋（東京都千代田区一ツ橋1丁目2-2住友商事竹橋ビル）

参加費：無料（懇親会参加費 2,000円）

申し込み方法：WEB申込み（2/23締め切り）定員100名

<http://inoel.yz.yamagata-u.ac.jp/news/20180302softmatterrobotics>



プログラム（予定）

13:30～16:45

- ・ 基調講演 高西淳夫氏（早稲田大学創造理工学部総合機械工学科 教授）
- ・ 招待講演 調整中
- ・ 平成29年度 ソフトマターロボティクスコンソーシアム 成果報告（山形大学）

17:00～18:30 交流会（同施設内） 参加費2,000円

問い合わせ先

山形大学 有機エレクトロニクスイノベーションセンター 事務局
Tel 0238-29-0566, e-mail kouinoel@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成30年2月22日
山形大学

* 詳細は別添の資料をご覧ください。

1. シンポジウム『これからの時代に必要なフードリテラシーとは？

～山形の地域性を活かした食育の可能性～』の開催について

栄養、味覚、農業、学校教育など様々な角度から山形の地域性を活かした食育の可能性を探り、身につけるべき「フードリテラシー」について考えます。

日時：平成30年3月21日（水・祝）13時00分～17時30分

場所：山形大学小白川キャンパス 基盤教育2号館221講義室

※参加無料（要申込／3月14日締切）

※これまでの定例会見でお知らせしたもので、開催が迫っているイベント

◎ 山形大学認定「産学金連携コーディネーター」認定証授与式・記念講演

日時：平成30年3月2日（金）13時30分～16時15分

場所：山形大学小白川キャンパス 法人本部棟3F第一会議室

◎ 核子構造に関する国際シンポジウム

物質の重要な要素である原子核を構成する核子（陽子と中性子）の構造に関して最新の実験データなどの議論をするための国際シンポジウムを開催します。

日時：平成30年3月8日（木）10:30～16:50

会場：理学部1号館13号教室

平成30年2月22日
山形大学

シンポジウム『これからの時代に必要なフードリテラシーとは？ ～山形の地域性を活かした食育の可能性～』の開催について

国内外でご活躍の先生方をお招きし、栄養、味覚、農業、学校教育・・・様々な角度から山形の地域性を活かした食育の可能性を探り、私たちが身につけるべき「フードリテラシー」について考えます。

日本において食育基本法が制定されて10年以上が経過し、各地で様々な食育活動が行われています。しかしながら、平成27年に総務省が公表した「食育の推進に関する政策評価」では、目標の達成度は進展が大きいとされ、食育の効果的な進め方や適切な評価方法があらためて問われています。

我々の食生活が益々多様化する昨今、食に関する能力の総体であり、人間の素養として身につけるべき資質として、「フードリテラシー」に関する議論が、欧米で盛んになりつつあります。本学では、この新しい概念に国内の大学としていち早く着目し、YU-COE（山形大学先進的研究拠点形成支援事業）の一つとして、「フードリテラシー育成のためのカリキュラム開発に関する国際的研究」を始動しました。本シンポジウムは、初年度のキックオフイベントとして、海外の食育にも造詣の深い豪華なシンポジストを揃え、これからの時代に必要なフードリテラシーについて様々な角度から捉え直し、さらに、山形の地域性を活かした食育の可能性について考えます。教育関係者の他、農業、経済、食文化、健康福祉等様々な分野からの多数のご参加をお待ちしています。

参加希望の方は、3月14日（水）までに、氏名、ご所属、連絡先をご記入の上、件名を「シンポジウム申込」とし、メールまたはFaxで下記へお申込みください。参加費は無料です。できるだけ公共の交通機関をご利用下さい。やむを得ない場合は、駐車場希望と申込時にお伝え下さい。

【招聘する先生方】

- 司会進行：金子佳代子氏（横浜国立大学名誉教授）
- 栄養教育の視点から：赤松利恵氏（お茶の水女子大学教授）
- 味覚教育の視点から：石井克枝氏（千葉大学名誉教授）
- 家庭科教育の視点から：表真美氏（京都女子大学教授）

【本学から】

- 趣旨説明：大森桂（学術研究院教授・地域教育学部主担当）
- 食農教育の視点から：江頭宏昌（学術研究院教授・農学部主担当）

（お問合せ先）

学術研究院教授(地域教育学部主担当) 大森 桂
Tel&Fax:023-628-4353
Email:omorik@e.yamagata-u.ac.jp

これからの時代に必要な フードリテラシーとは？

～山形の地域性を活かした食育の可能性～

2018年
3月21日
(水・祝)

会場 山形大学小白川キャンパス
(山形市小白川町1-4-12)

基盤教育2号館2階 221講義室

- 12:30 受付
- 13:00 開会 司会:金子佳代子氏(横浜国立大学名誉教授)
- 13:05～13:25 趣旨説明 大森桂(山形大学教授)
- 13:30～14:10 栄養教育の視点から:赤松利恵氏(お茶の水女子大学教授)
- 14:15～14:55 家庭科教育の視点から:表真美氏(京都女子大学教授)
(休憩・質問受付)
- 15:10～15:50 味覚教育の視点から:石井克枝氏(千葉大学名誉教授)
- 15:55～16:35 食農教育の視点から:江頭宏昌氏(山形大学教授)
(休憩・質問受付)
- 16:50～17:30 質疑応答・統括
- 17:35 閉会

参加費無料

国内外でご活躍の先生方をお招きし、栄養、味覚、農業、学校教育・・・
様々な角度から山形の地域性を活かした食育の可能性を探り、私たちが
身につけるべき「フードリテラシー」について考えます。

申し込み方法

3月14日(水)までに、氏名、ご所属、連絡先をご記入の上、
件名を「シンポジウム申込」とし、メールまたはFaxで下記へ
お申込みください。できるだけ公共の交通機関をご利用下
さい。やむを得ない場合は、駐車場希望と申込時にお伝え
下さい。 メール: omorik@e.yamagata-u.ac.jp
Fax: 023-628-4353

問い合わせ先

山形大学地域教育文化学部 大森桂研究室
omorik@e.yamagata-u.ac.jp 023-628-4353